

# 【解説編】教師と子どもの「関係づくり」振り返りシート（試案）～ 関係づくりに役立てる・関わる視点を広げる～



- ・「教師と児童生徒一人ひとりとの関係づくり」と「教師と学級集団との関係づくり」を大切にするために、振り返りシートをご活用ください。先生方の何気ない日常の取組の中に、素晴らしい実践があるはずです。
- ・子どものちょっとした成長や同僚のちょっとした工夫に気づいたら、それを伝えてみましょう。仲間を支えたり、勇気が持てたり、自分の取組の素晴らしさ気付いたり、新たな視点が広がるはずです。

関係づくりの基本的な考え方とその要素	観点	観 点 の 主 旨	観 点 を 支 え る 要 素	振 り 返 り の 項 目
内面に対する共感的理解 【要素】 受容 共感 尊重 信頼  客観的・総合的な理解 【要素】 傾聴 理解 ふれあい  個に応じた的確な指導 【要素】 育成 指導 支援	温かい関係づくり	コミュニケーションの手段は、言語的手段 30%、非言語的手段 70%によると言われており、日頃からの接し方や言動のあり方が、関係づくりには大切です。忙しい中でも、「目を合わせる、声を掛ける、笑顔を見せる」などを心掛けたいものです。 また、一人ひとり言葉に耳を傾け、気持ちを敏感に感じ取ろうという共感的な姿勢も重要です。子どもの気持ちを大切に育てる態度を基本とし、結果そのものを評価するのではなく、取組の姿勢や自発性、自主性に対する励ましや評価を行いたいものです。	1 非言語も大切にしたい雰囲気づくりをする（受容）	日頃から話しやすい雰囲気を作り、笑顔で関わっている
			2 全ての子どもへ平等に関わる（尊重・信頼）	朝と帰りの挨拶は、どの子にも明るく元気に声を掛けている
			3 尊重の気持ちを伝える（尊重・信頼・育成）	「ありがとう」「助かったよ」など感謝の言葉を伝えている
			4 児童生徒の成長を喜び、伝える（共感・育成）	一人ひとりのがんばりや、普段の小さな良い成長をほめている
			5 児童生徒の話は最後まで聴く（傾聴・共感）	子どもとの話は、温かいまなざしを向け、子どもの気持ちになって最後まで聴いている
			6 違った意見も大切にする（受容・尊重）	子どもの思いや考えを大切にして、少数意見も取り上げている
			7 教師の考えを伝える（育成・支援・指導）	考えや意見が違う場合、子どもの気持ちは尊重しつつ、自分の考えを伝えている
	一人ひとりの理解	「生きる力」を育むためには、子どもを理解し、その上で立つて指導を効果的に行うことが大切です。子どもは理解してくれる人には、安心して心を開きますが、理解してくれない人には、拒否的になり、関係づくりが進みません。日頃から関わり、対話を多くして、日常生活の行動・感情・思考だけではなく、背景となる事実を多面的・多角的に知ることが必要です。理解が深まれば、得意、不得意等の特性も明確になり、効果的な指導方法も明らかになります。	8 日常の関わりを大切にする（理解・ふれあい）	健康観察やプリント・提出物を渡す時は、名前を呼び一言添えるなど、声かけをしている
			9 教育相談により内面を理解する（理解・傾聴・共感）	教育相談などの機会をとって、一人ひとりの気持ちを理解している
			10 雑談から意外な面を理解する（理解・ふれあい・受容）	放課後や休み時間に、子どもとの世間話や趣味などの対話の機会を作っている
			11 個性の理解と課題を把握する（理解・育成・支援）	子ども一人ひとりの良さや課題を理解し、その子の目標を共有している
			12 日常的に内面に関わる（理解・受容・共感）	生活記録や日記などの提出物には目を通して、肯定的なコメントをしている
			13 学級活動に貢献する様子を把握する（理解・役割・育成）	給食準備・清掃などを共に行い、授業以外の取り組みの様子を観察している
			14 目立たない児童生徒に意識を向ける（理解・尊重・支援）	いつもと違う様子の子どもの目立たない子どもに声を掛けている
児童生徒同士への共感的な関係づくりの取り組み 【要素】 ふれあい 自己理解 承認 存在感  集団生活が営まれる学級や学校の教育環境を形成する 【要素】 ルール確立 責任 役割 SST	集団の温かい関係づくり	集団には、お互いを尊重し、良さを認め合えるような、望ましい人間関係を形成し、他者との協調性を育成する視点が重要です。集団としての効果を高めるには、友人の話や話を聞くことを基本として、お互いの理解を深めた上で、本音の関わり合いが必要です。また、教師による本音の自己開示が、子どもたちとの本音の関わり合いを促進させます。子どもが、それぞれの役割や分担を通して、自分たちの力で課題に取り組むことによって、集団に貢献する態度も育成されます。	15 集団の状態を理解し環境を作る（理解・支援・存在感）	子どもたちの関係や特性等を理解して、座席決めや班編成を行っている
			16 基本として「聞く」ことを大切にする（自己理解・傾聴）	友だちの意見や発表を黙って最後まで聴くように、発表者に注目させている
			17 お互いの良さを認め居場所づくりを行う（承認・自己理解）	「良いところ見つけ」を行うなど、学級全体や活動集団で良さを確認している
			18 本音の関わり合いの場を作る（ふれあい・自己理解）	ペア活動、グループ活動を取り入れ、子ども同士が本音で話せる場を作っている
			19 教師が自己開示をする（ふれあい・信頼）	学活などで、教師自身の経験談（成功・失敗談）など、前向きになる話をしている
			20 相手意識の大切さを繰り返し伝える（自己理解・承認感）	思いやりのある姿や集団活動に貢献する姿がみられた時は、全体の前で紹介している
			21 どの子にも役割を持たせる（存在感・責任・役割）	どの子にも役割を持たせ、色々な立場の役割を経験させている
			22 ルールを守るモデルになる（SST・信頼）	子どもたちのモデルとなるように、授業の開始と終了の時間を必ず守っている
			23 ルール作りの必要性を理解させる（ルール確立・責任）	集団のルールが守れるように、子ども達みんなて話し合い、理由を共有している
			24 約束を最後まで守るモデルとなる（責任・信頼）	集団で決めたことや、自分が提案したことは、自分も含め集団全体で守っている
			25 集団全員を動かすための教示を行う（ルール確立・指導）	指示は、子どもの注意を向け、分かりやすい言葉で、はっきり短く伝えている
内面に対する共感的理解 【要素】 受容 共感 尊重 信頼  客観的・総合的な理解 【要素】 傾聴 理解 ふれあい  個に応じた的確な指導 【要素】 育成 指導 支援	個別指導には、集団とは別に行う指導と、集団指導の中で個に配慮する指導の2つがあります。集団不応の場合や、特別な発達の指導・援助を行う場合は、単独での個別指導の方が効果的なこともあります。また、すべての子どもに課題が潜在していることを念頭に置き、サインを見逃さないよう、日頃から観察や面接、質問紙調査などにより、早期発見に努めることが大切です。予防的な個別指導では、深刻な問題に発展しないように初期段階で解決するよう心掛けたいものです。問題の発生時には、迅速な事実確認を行い、その原因を分析し、子どもに応じた指導方針を立てることが重要です。	26 ルール違反には正しい行動を確認する（ルール確立・育成）	ルールを守れなかった時見逃さず、その場で正しいルールを子どもに確認している	
		27 日常生活の評価をしルールを強化する（ルール確立・承認）	授業の終了時、集中して取り組めたことや授業のルールが守れた時は、評価している	
		28 良い行動を強化し継続を図る（ルール確立・SST）	子どもの良い行動をモデルとして取り上げたり、学級・学年通信などで紹介している	
		29 SOSを捉えようと努める（理解・支援）	アンケートを実施するなど、何らかの方法で、SOSを認識しようとしている	
		30 SSTを活用する（育成・支援）	友だちとかかわれない子どもには、具体的なかわり方を一緒に考えている	
		31 トラブルを回避する（理解・育成・支援）	感情コントロールが苦手な子どもの落ち着く方法や場所を知っている	
		32 いじめは許されないことを確認する（信頼・指導）	・いじめや傷つける言動が見られた時は、学級の問題としてどうしたらよいかを考えている	
		33 早期対応が問題解決の鍵であることを確認する（信頼・支援）	トラブルが起きた時、その日のうちに、関係者から事実を確認して対応している	
		34 緊急時の対応を優先する（尊重・信頼）	子どもがけがをした時は、優先してその子に対応している	
35 出席状況からSOSを認識し状況を把握する（理解・支援）	欠席が3日続いた時は、連絡の上、家庭訪問をしている			
オリジナル		ご自身が工夫されている取組は、何ですか？その得意な取組を活かして、子どもとの「関係づくり」を促進させていきましょう。		

※振り返りの項目は、関係づくりのほんの一部です。教師同士のコミュニケーションを大切に、自分自身の取組も他の教師に伝えていきたいものです。



その取組、いいですね。さすがですね！